

FRONTIER INTERNATIONAL GROUP

2026年4月期 決算説明資料

株式会社フロンティアインターナショナル

東証グロース〔 7050 〕



CONTENTS

01 | 2026年4月期業績

02 | 2027年4月期通期業績予想

03 | APPENDIX

01 | 2026年4月期業績

売上高

299億円

前年同期比

+47.3%

営業利益

21億円

前年同期比

+64.4%

経常利益

21億円

前年同期比

+66.4%

当期純利益

14億円

前年同期比

+42.1%

2026年4月期業績

- 売上高は299億円(前年同期比:47.3%増)等、全ての段階損益で前年同期実績を大幅に上回り、過去最高業績を大きく更新(コロナ特需期間を除き過去最高利益を更新)
- 当社グループは、これまでの安定的な成長から、非連続的な局面へと大きく変貌

(百万円)	実績		前年同期比
	2025年4月期	2026年4月期	
売上高	20,335	29,948	+47.3%
売上総利益 (利益率)	3,893 19.1%	5,531 18.5%	+42.1%
販管費	2,616	3,431	+31.1%
営業利益 (利益率)	1,277 6.3%	2,100 7.0%	+64.4%
経常利益 (利益率)	1,267 6.2%	2,108 7.0%	+66.4%
当期純利益	872	1,400	+60.5%
非支配株主に帰属する純利益	△ 3	155	
親会社株主に帰属する純利益	876	1,245	+42.1%

四半期別売上高推移

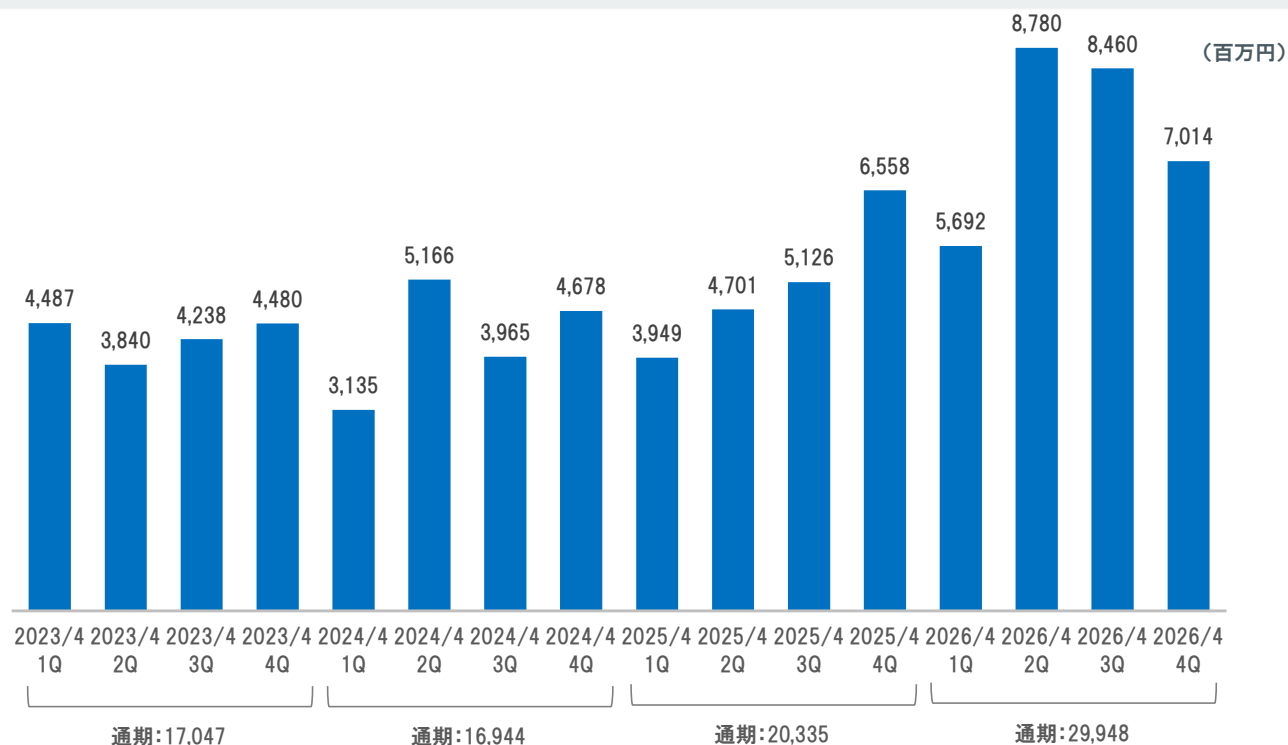
- 当第4四半期の売上は70.1億円で前年同期比106.9%と堅調に推移した
- ロールアップ戦略の奏功により事業規模が拡大、案件の大型化が進行するなど、当期は、全ての四半期比において過去2期の実績を大きく上回った

当第4四半期売上高

70.1億円

前年同期比

+6.9%



四半期別営業利益推移

- 当四半期における営業利益は1.8億円となり、一過性の特殊要因が発生したこと及び前四半期は大型案件が重なったことにより前年同期比62.0%減となった
- 特殊要因としては、NPUに係るPPA関連の原価計上1.5億円、来期以降に向けた戦略投資の増加等があり、当該特殊要因を除いた場合、前年同期比21.6%減となった

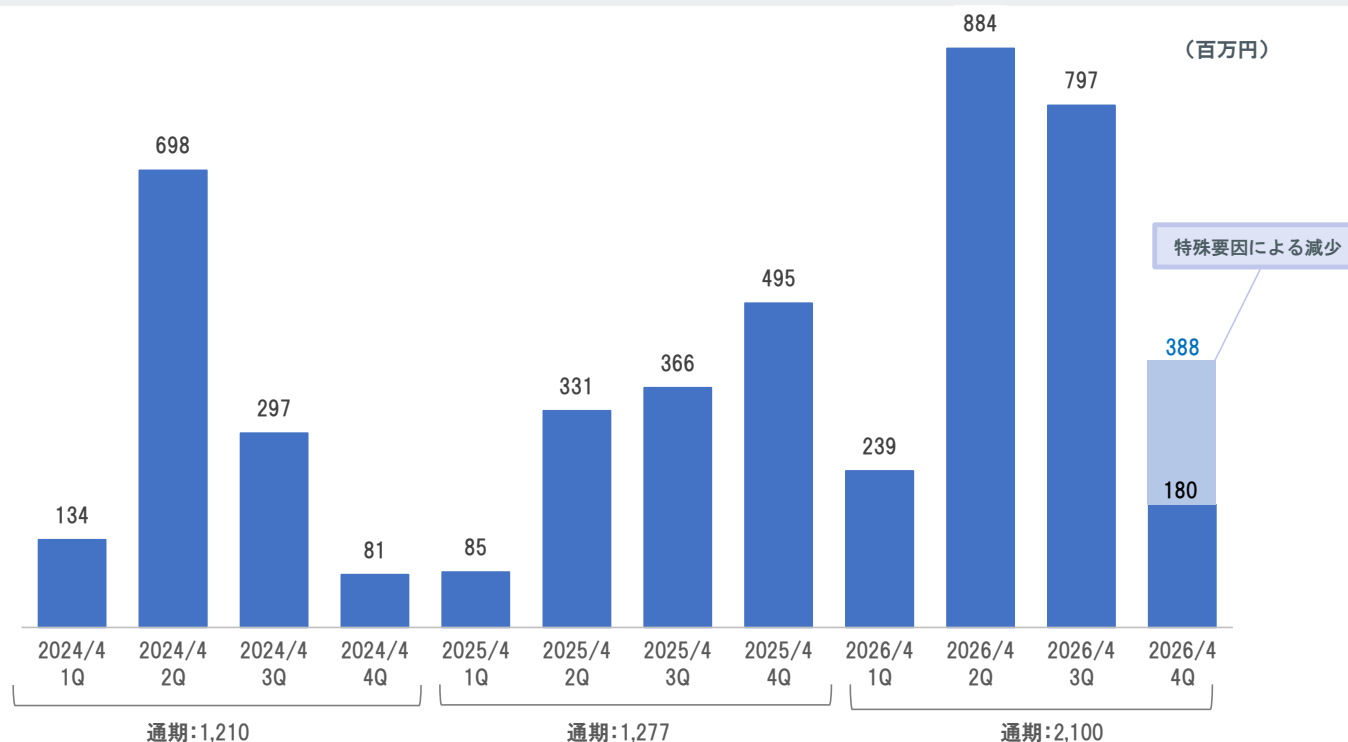
当第4四半期営業利益

1.8億円

前年同期比

△21.6%

※特殊要因を除いた場合



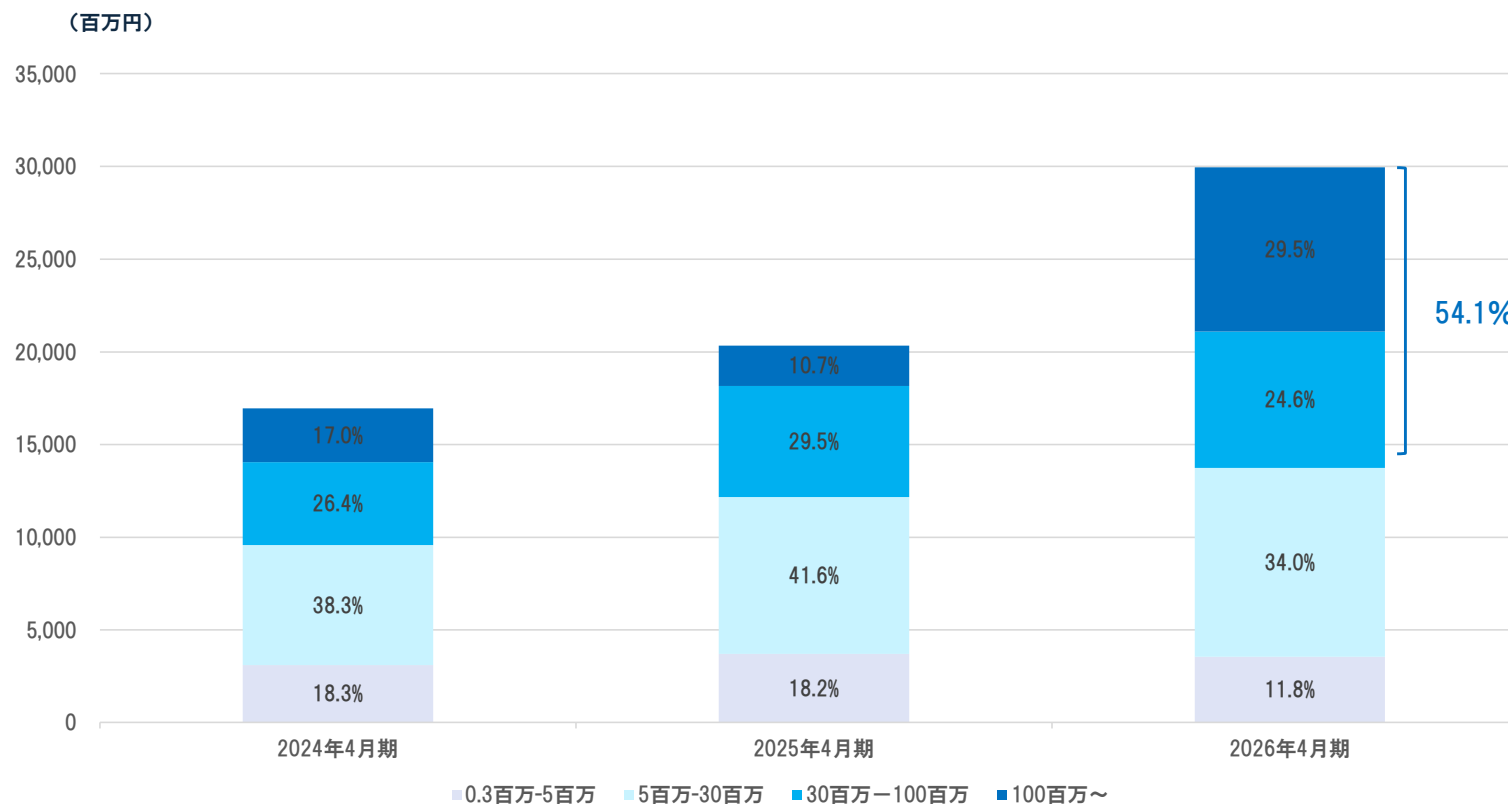
業種別売上構成比

- ほぼ全ての業種で前年同期実績を超過、特に「スポーツ・ファッション」は、当期グループインしたNPU社の影響もあり、世界的ハイブランドのイベント・展示会が大きく伸長
- 「ゲーム・IP」の著名IPのポップアップストア運営、「自動車・関連品」の開催イベントのの案件が大型化しつつ継続

(百万円)	2025年4期		2026年4期		増減額	増減率
スポーツ・ファッション	1,138	5.6%	4,232	14.1%	3,094	271.9%
情報・通信	3,674	18.1%	4,055	13.5%	381	10.4%
小売・家電	2,051	10.1%	3,033	10.1%	981	47.8%
官公庁・団体	1,914	9.4%	2,980	10.0%	1,066	55.7%
食品	3,100	15.2%	2,966	9.9%	-135	-4.3%
ゲーム・IP	1,443	7.1%	2,473	8.3%	1,030	71.4%
その他団体	1,431	7.0%	2,344	7.8%	913	63.8%
その他	914	4.5%	1,898	6.3%	984	107.7%
嗜好品・化粧品	1,213	6.0%	1,633	5.5%	421	34.7%
交通・レジャー	1,169	5.7%	1,346	4.5%	177	15.1%
不動産・住宅設備	1,045	5.1%	1,250	4.2%	205	19.7%
自動車・関連品	393	1.9%	724	2.4%	332	84.6%
金融・保険	636	3.1%	682	2.3%	46	7.2%
薬品・医療用品	215	1.1%	332	1.1%	117	54.5%
総計	20,335	100.0%	29,948	100.0%	9,613	47.3%

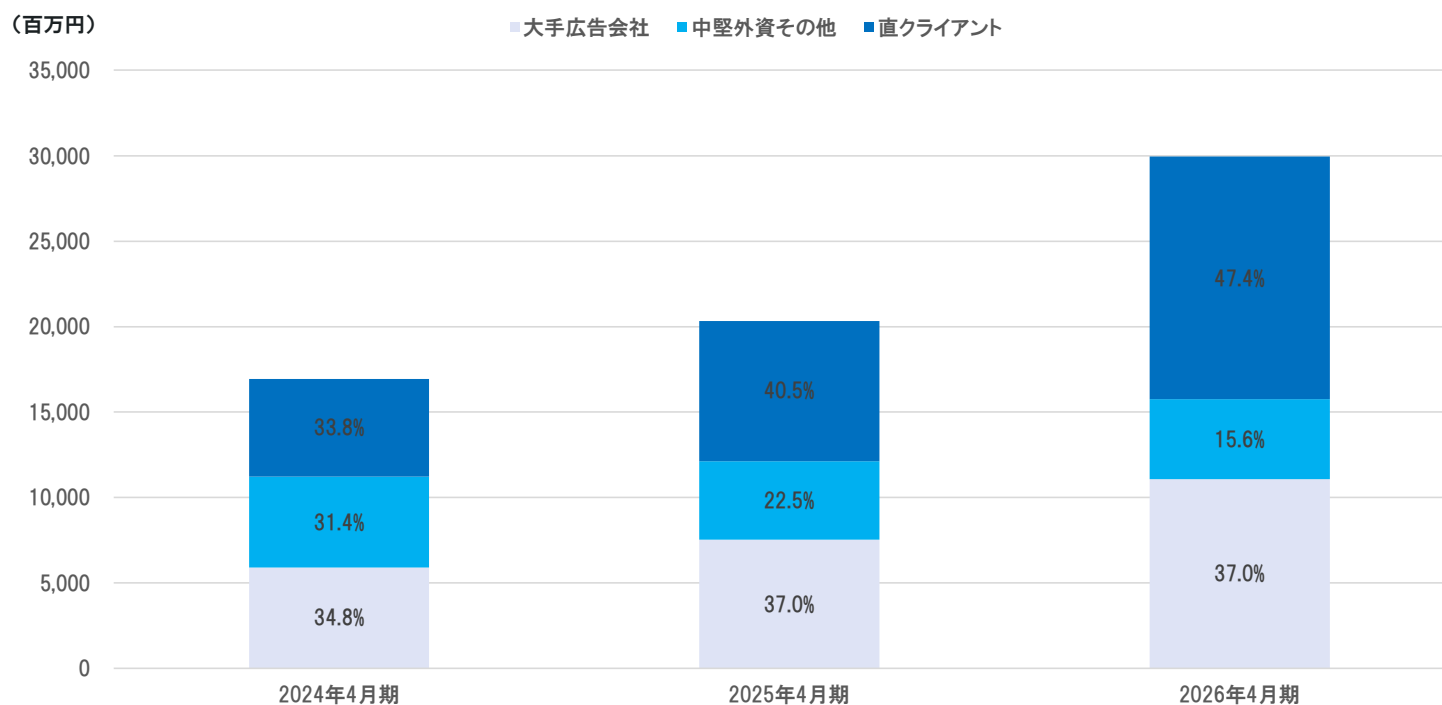
案件規模別分析

- 1億円超の案件で全体売上高の29.5%を占有、30百万円超を加えると全体売上高の54.1%(25年4月期は40.2%)が占める
- 継続したロールアップ戦略と人的投資戦略が結実し、獲得案件の大型化が着実に進捗



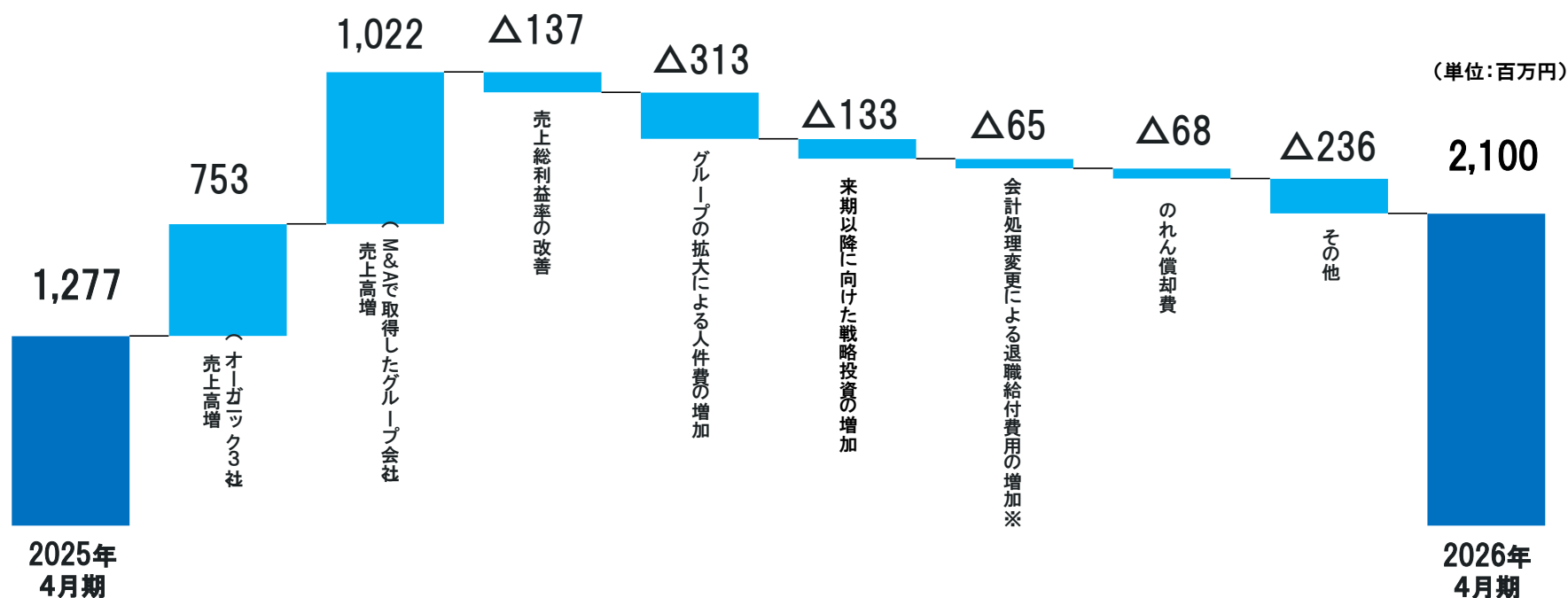
受注先別売上構成比

- 当社グループの売り上げ規模が大きく拡大する中、オーガニック3社(株)フロンティアインターナショナル、(株)フロンティアダイレクト、(株)イリアル)で直クライアント開拓が順調に進行していることに加え、従前より直クライアントを得意先とするグループ会社を中心にクライアント開拓が進展したことで、当社グループが目標としている直クライアント比率50%の水準までほぼ到達



営業利益の増減分析

- グループ全体における案件の大型化及びロールアップ戦略の奏功による売上利益の拡大などにより営業利益が大幅に伸長
- 来期以降に向けた戦略投資を積極的に行うなど、将来における成長エンジンを強固なものとした



※ 簡便法から原則法への変更による影響(1Q固有)

連結貸借対照表

- M&A戦略に基づく事業拡大を推進しつつ、盤石な財務健全性を維持
- 流動資産は現預金91億円と大幅増加。事業活性化と収益拡大により営業債務が74百万円、法人税等の税金費用が5億円等増加したことにより、負債合計が9.2億円増加

(百万円)	2025年4月期	2026年4月期	増減
流動資産	11,861	13,369	1,507
現預金	7,499	9,169	1,670
固定資産	2,620	3,354	734
負債	5,453	6,379	926
純資産	9,028	10,344	1,283
自己資本比率	61.4%	58.6%	△2.8%
総資産	14,482	16,723	2,241

連結キャッシュ・フロー計算書

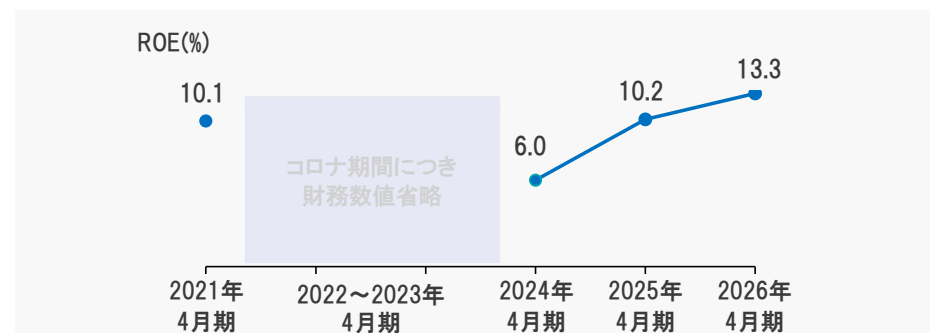
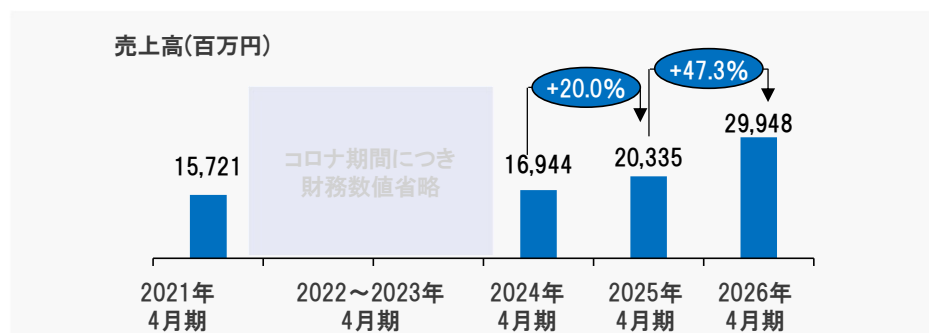
(百万円)	2025年4月期	2026年4月期	前期末比
営業CF	1,673	2,447	774
投資CF	△445	△398	47
財務CF	△293	△505	△211
配当支出	△173	△440	△266
現金・現金同等物 増減額	929	1,544	615
期末残高	6,113	7,658	1,545
FCF	1,227	2,049	822

- 営業CFは、前期末比6.7億円の増加
- 投資CFは、前期末比1.5億円の増加
- 財務CFは、配当金の支払額の減少により、前期末比2.1億円減少
- FCFは、20億円となったものの、前期末比8.2億円の増加
- 種々のM&Aを実行しながらも現金・現金同等物の期末残高は70億円を超え、今後の成長に向けた更なる投資余力を確保

当社グループの戦略的投資の進捗状況(1/2)(ロールアップ)

- 6社のM&A及び4件のCVC投資による非連続な成長とシナジー効果により、ROEは直近2期で6.0%から13.3%へと倍増
- M&AやCVC投資に際しては、今後も規律のある厳選した投資を継続して実行

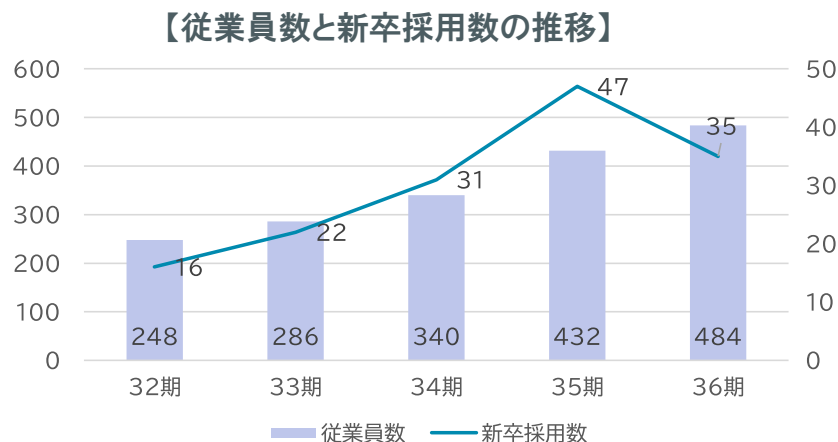
2023年4月期以前	2024年4月期	2025年4月期	2026年4月期
<p>・CVC投資</p> <p>60% Z世代・若年層向けアジアファッションEC企業への投資</p>	<p>・M&A</p> <p>GAIA WEB広告の製作・運用を得意とする総合セールスプロモーション企業がグループ参画</p> <p>・CVC投資</p> <p>YADOKARI トレーラーハウスを活用する販売プロデュース企業への投資</p> <p>GROWTH VERSE マーケティングAI企業への投資</p> <p>FOGG エンターテインメント業界向けオンラインくじ企業への投資</p>	<p>・M&A</p> <p>CineBridge Inc. インシアタープロモーション企業がグループ参画</p> <p>max produce 大規模な社員表彰式・社員総会などのイベント製作に強みを持つ企業がグループ参画</p> <p>vancraft デジタルをマーケティング支援を強みとする企業がグループ参画</p> <p>KP マーケティングの上流から下流まで幅広い支援に実績がある企業がグループ参画</p>	<p>・M&A</p> <p>NPU ハイブランド業界に広い顧客基盤とイベント実績を有する企業がグループ参画</p>



当社グループの戦略的投資の進捗状況(2/2)(人的資本投資)

- 当社グループの戦略的投資の中核をなす人的資本投資も精力的に実施、グループ従業員の増強やエンゲージメント向上を実現。

採用の強化



- 付加価値を創出する人材の確保が当社における成長の源泉であり、グループ従業員数は直近5期で195%の人員強化を実現

人材の育成

- 全社を対象に、未体験を創造する人材育成を狙いとしたリベラルアーツ教育に注力
- 従業員数拡大に伴い重要となる組織マネジメントを強化するため、管理職向けのリーダーシップ研修プログラムを導入

エンゲージメントの向上

- 優秀人材の確保およびエンゲージメント向上のために直近5期間で3度ベースアップするなど従業員へ利益還元を積極実施。平均給与額は前期比で8%上昇
- 人事制度や社内環境などの継続的な改善により、従業員エンゲージメントの向上を実現。直近5期間で10ポイント向上

02

|

2027年4月期通期業績予想

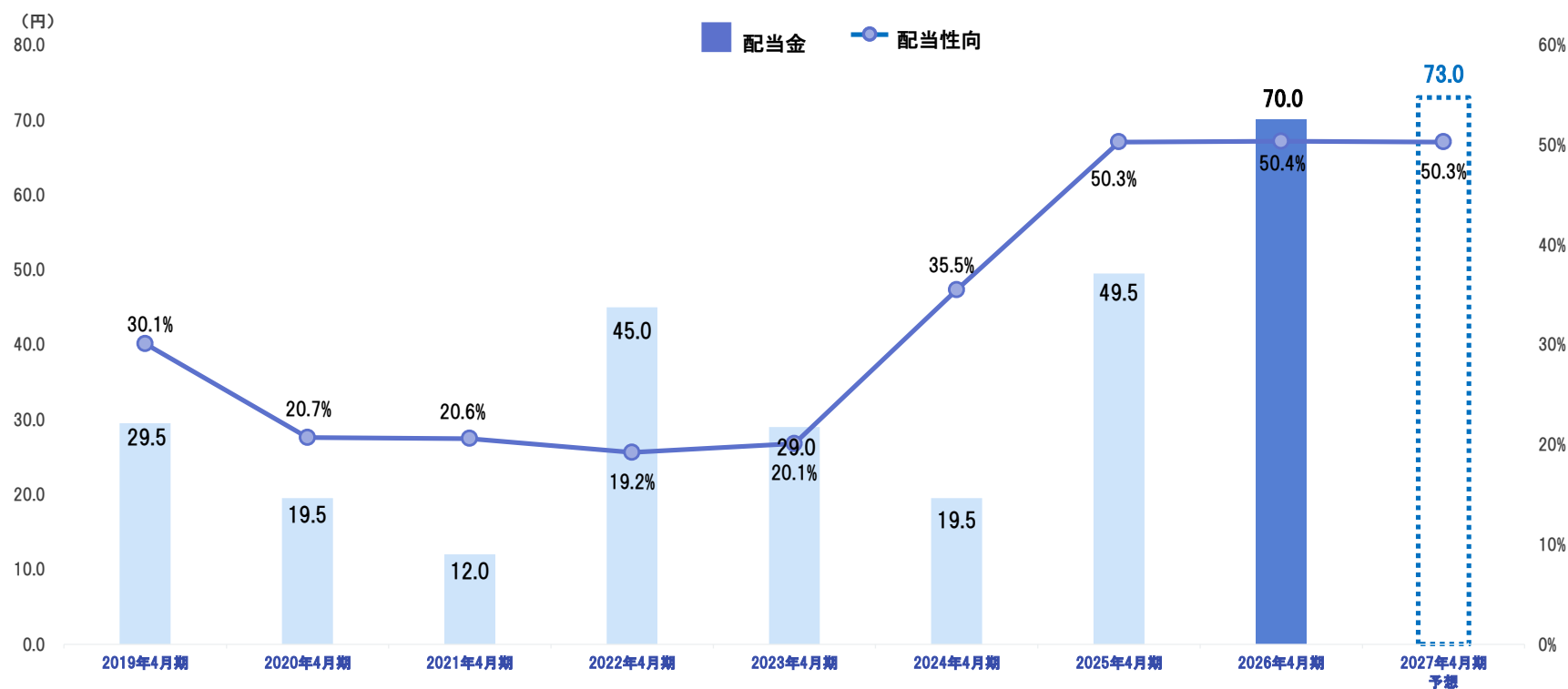
2027年4月期通期業績見通し

- 2027年4月期の通期業績見通しについて、2026年4月期において大阪万博等のような大型イベントはないものの、グループ会社の増加に伴うシナジー効果及び着実な案件獲得により、前期比では底堅く推移して微増となる見込み

(百万円)	2026年4月期 連結業績	2027年4月期 連結業績予想	増減額	増減率
売上高	29,948	30,100	152	0.5%
営業利益	2,100	2,110	10	0.5%
経常利益	2,108	2,110	2	0.1%
当期純利益	1,245	1,300	88	7.2%

配当予想

- 2026年4月期の配当は、1株あたり70円と過去最高
- 業績連動型の柔軟な還元を実施。連結配当性向50.0%程度を基準に設定(大型M&A実施時を除く)
- 配当の安定性を高め、利益還元のための機会を充実させるため、中間配当の実施など株主還元の多様性を検討



※2026年2月1日を効力発生日とした株式分割を考慮しています

受注・引合残高

- 新年度に向けて受注・引合は順調に推移しており増加傾向となっている
- パイプラインの精度の向上もあり、「Lowの合計」は大幅な増加は今後の成長ドライバーとなることに期待

(百万円) 売上高	2026年4月期	2027年4月期	差異
	(2025/4/30現在)	(2026/4/30現在)	
受注・引合残高 (受注+High+Midの合計)	11,725	12,129	404
Lowの合計	3,454	4,736	1,282

※オーガニック3社(株)フロンティアインターナショナル、(株)フロンティアダイレクト、(株)イリアル)

※1会計期間にて集計しております

- 受注:金額、実施時期が決定している案件
- High:金額・実施時期に不確定要素のある案件(80%以上の確度)
- Mid:企画・提案案件のうち、受注する確度の高い案件(50%以上の確度)
- Low:企画・提案中の案件

03 | APPENDIX

— 私たちの未来

OUR FUTURE

心の豊かさを分かち合える
生きる喜びに満ちた世界の実現。

私たちが創る体験によって、世界を喜びと感動で満たし、
幸福の総量が増えていくことが私たちの願いです。

閉塞感がある現代において、物質的・機能的な充足だけでなく、
精神的な充足や心が豊かであること、そして人生を前向きに進めていく生きることの
喜びに溢れることが重要だと考えています。

— 私たちの使命

OUR MISSION

未体験を開拓し、
すべての人の経験にする。

私たちが目指すものは、人の生きがいを創造し、人生を意義あるものとし、
すべての人の人生に貢献していくことです。そのために私たちがすべきことは、
自分自身・顧客・世の中に未知の体験を創り続けることにより、
人の心を動かし、それを人の経験にし、人々の価値観を変え、行動を変え、
やがて社会がより良い方向に大きく変えていくことです。

会社概要

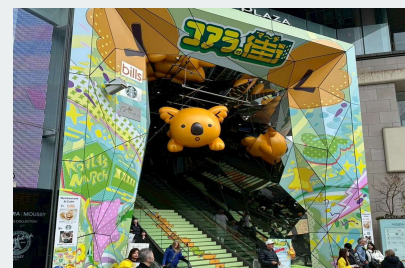
会社名	株式会社フロンティアインターナショナル
所在地	東京都渋谷区渋谷3-3-5 NBF 渋谷イースト
代表取締役	河村康宏
事業内容	エクスペリエンスソリューション事業 ヒューマンソリューション事業 デジタル・テクノロジーソリューション事業
設立	1990年6月
資本金	429,766千円(資本準備金含む)
主要拠点	札幌、仙台、千葉、名古屋、大阪、広島、小倉、福岡
正社員数	484名(2026年4月時点)
グループ会社	株式会社フロンティアダイレクト 株式会社イリアル 株式会社ガイアコミュニケーションズ 株式会社シネブリッジ 株式会社マックスプロデュース NPU株式会社 他、非連結子会社4社



東京マラソンEXPO 2026



Lee 101周年イベント



コアラのマーチ POPUP



エールフランス航空 PR発表会



東京消防博物館企画展



フリーレン 30周年プロモーション



お問い合わせ先



info@frontier-i.co.jp

● 本資料に関する注意事項

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予想とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社グループが事業展開する業界の動向等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- また、当社グループ以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性及び適切性を検証しておらず、保証していません。